

RI2820地区

# 水海道ロータリークラブ



世界へのプレゼントになろう

2015-2016年度 RI会長  
K. R. ラビンドラン 氏

**例会予定** 7月15日 2015-16年度事業計画発表  
7月22日 会員卓話 北村 仁会員

VOL. 53 No. 2(通算No. 2443)

2015年 7月8日(水) 例会プログラム

点 鐘

ロータリーソング・四つのテスト

ビジター紹介

出席報告

S A A 報告

諸 報 告

幹 事 報 告

会 長 挨 拶

2015-16年度 事業計画発表



クラブ創立当初のバナーは、ロータリーのマークに「水」の字をあしらったものでしたが、創立10周年当時、バナーを変えたいという意見が出て、研究検討の結果出来たものが現在のものです。

鬼怒川と小貝川にはさまれた水海道は、昔から水路を利用して、江戸に通じる要地として繁栄し、川との関わり合いの深い所です。

鯰は「如拙」の「瓢箪鯰」にあるよう、また幸を招く魚として、川魚の代表的な魚です。この「鯰」と「川」が当地の特色をもっとも的確に表すだろうと云うことで、東京女子美術学校講師であった増淵淳子先生が両川の清流に黄金の鯰を配して図案化したものです。

2015-2016年度 会 長 海老原良夫 幹 事 松崎隆詞

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790  
常陽銀行水海道支店内 3F

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎0297-22-1251

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386  
釜久ビル 3F

TEL0297-30-0875 Fax0297-30-0876

E-mail [mitsu-rc@lapis.plala.or.jp](mailto:mitsu-rc@lapis.plala.or.jp)

URL <http://www.mitsukaido-rc.jp/>



例会報告 VOL. 53 No. 1 (No. 2442) 7月1日(水)曇り(司会 石井康弘委員長)

本例会での主な事項

◎会長挨拶

◎幹事挨拶



2015-2016年度 海老原良夫会長 松崎隆詞幹事

### 櫛の引き継ぎ



### 記念品贈呈



### ビジター

第7分区ガバナー補佐 中村康博様(牛久ロータリークラブ)

第7分区ガバナー補佐セクレタリー 手賀晴夫様(牛久ロータリークラブ)

### 誕生祝



《会 員》本橋美章会員 石塚克己会員 鈴木邦彦会員 山牟田 博会員 島田 勝会員

五木田利明会員 瀬戸隆海会員

《ご夫人》青木(清)会員 北村(陽)会員

**ガバナー補佐挨拶** 中村康博様(牛久ロータリークラブ)



2015－2016年度ガバナー補佐の中村康博と申します。本日は、セクレタリーの手賀晴夫と一緒にまいりました。41歳で入会し25年のロータリー歴で1年間大役が出来るか心配しています。

RI会長、ガバナーの方針がどういう意味なのか考えながら努力していきたいと思

います。  
一年間ご協力お願いします。

**幹事報告** 松崎隆詞幹事

週報受理クラブ なし

例会変更通知 なし

**2014－2015年度 会計報告** 山野井周一前幹事

別紙の通りです。

**2014－2015年度 監査報告** 大塚令昌会員

2014－2015年度、水海道ロータリークラブの収支決算について、関係諸帳簿と証拠書類について監査した結果、すべて符合しており適正でありましたことを報告致します。

**会長挨拶** 海老原良夫会長 2015. 7. 1 「 済美(せいび) 」



国際ロータリーは今日から新たな年度に入りました。世界中のロータリアン 120万人余の中の3人のリーダー、ゲーリー・フォアン RI 会長、第 2820 地区藤居彰一ガバナー、水海道クラブ武藤康之会長、彼らは、昨年度それぞれの立場で、その職責を見事に果たし、国際ロータリーの歴史にその名を残しました。当クラブに於いても武藤会長、山野井幹事は第 52 代会長幹事としてクラブの発展に大いに尽力されました。

新年度の始まりにあたり私は、先ず以て武藤・山野井年度の、その功を称え、労を労うものです。武藤会長・山野井幹事、ご苦勞様でした。そして武藤・山野井年度を支えた理事役員の皆様、地区役員として出向し水海道クラブの名声を内外に轟かせた方々、さらに例会やクラブ行事に積極的に参加しロータリアンとしての義務を果たされた皆様、これら全ての皆様に対し、私は衷心から敬意を表し賛辞を呈する次第です。

さて私は、皆様方から 2015～16 年度水海道ロータリークラブ会長職を与えて戴きました。微力ではありますが誠心誠意この職に取り組む所存です。会員の皆様におかれましては武藤・山野井年度同様に、新年度にも変わらぬご協力ご厚情を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げる次第です。

さて、海の向こう、米国シカゴの地に国際ロータリーが創立されたのは 1905 年(明治 38 年)、創始者ポール・ハリスは、ときに 36 歳でした。同年、日本では、奇しくもポールと同年の伊予松山出身の帝國海軍少佐秋山真之が、連合艦隊司令長官東郷平八郎の作戦参謀として、日本海海戦においてロシア・バルチック艦隊を撃滅いたしました。

歴史を遡り、1905 年という年は、彼方では国際ロータリーが創立され、此方では國の興廢を賭けて大國ロシアに戦いを挑んだ年でもありました。当時の日米両國のその彼我の差に、そのころの未来に生きている私たちは、今、その思いを新たにします。

ところで、この国際ロータリー創立の 5 年前の 1900 年(明治 33 年)、この地に茨城県下 3 番目として旧制水海道中学が創立されました。天下國家に有為の人材育成を目指し、茨城県下いち早く旧制中学を誘致したこの町の人々が、建学の精神の象徴として、さらに新設の学び舎の将来の永遠を希求して用いた『済美』という言葉があります。その『済美』はまもなく組織された同窓会の名称としても使用され、爾來、教職員、同窓



生に語り継がれ、海中 115 年の歴史を今に語り継いでいる言葉のひとつ、でもあるのです。

その『済美』の語源は紀元前、孔子が著した『春秋』からの出典と言われております。

『春秋』は中国の古典五経の一つ魯の歴史書で豊富な史実に基づき、国家興亡の理を説き、経国の策を述べ、かつ处世の指針を余すところなく示しているものです。この『春秋』の解釈書として紀元前 320 年ごろ、書かれた『春秋左氏傳』の文公十八年の一節に、「此十六族也、世濟其美、不隕其名、以堯於至」<通釈:この十六族は、子孫代々その美德を立派に受け継ぎ、その名声を落とさず、堯の時代まで至りました…。>とあります。

この『春秋左氏傳』の一節にある「此十六族也」という主語を「水海道ロータリークラブは」という主語に置き換えて原文に投影させると、紀元前中国孔子の教えは、新解釈の文章として新たな命を授かり蘇生され、水海道ロータリークラブの実態を映す、次のような文章に生まれ変わります。すなわち

「水海道ロータリークラブは 1963 年創立され、爾来 52 年弛まぬ歩みを続けてまいりました。初代石塚峻会長以来、この水海道ロータリークラブは、代々その美德を立派に受け継ぎ、その名声を落とさず、以て武藤康之会長の時代まで至りました」と、なります。実は、これが、昨年開催された地区セミナー PETS で講師役のバスターガバナーから問われた「クラブの実態を把握せよ・クラブの良い点は何か?」に対する、私なりの答えなのです。

さらに PETS でのバスターガバナーからの、もうひとつのご指摘「クラブの継続性を図れ」に対する私見を上記の文章の前後に加筆すると、次の様に膨らむのです。そして、必然、それは私の会長としての所信とも成り得るのです。すなわち「1905 年米国シカゴでポール・ハリスが点したロータリーの炎は、燈々無尽、やがて日本にも伝播し、水海道ロータリークラブは 1963 年創立され、爾来 52 年弛まぬ歩みを続けてまいりました。初代石塚峻会長以来、この水海道ロータリークラブは、代々その美德を立派に受け継ぎ、その名声を落とさず、以て武藤康之会長の時代まで至りました。武藤・山野井年度を受け継ぐものとして、私は K.R.ラビンドラン RI 会長メッセージ<世界へのプレゼントになろう>第 2820 地区倉沢修市ガバナー<初心にかえり 新たな一歩を>の方針に沿って、水海道ロータリークラブが築いてきた伝統を基軸に、会員の皆様が新天地で(新たな委員会に所属して戴くことになる)心機一転、想いも新たに奉仕の理想を求め続ける活発なロータリー活動を展開していただく中から、希望に満ちた未来を目指した新たな方向付けも、そして私たちの思い描く水海道ロータリークラブの姿も、次第にその輪郭を現してくるのではないかと考えます。そこで私は<求め続けよう奉仕の理想を>をクラブ会長方針に掲げ、会員の皆様のご協力のご指導ご鞭撻を賜りながら全員参加のロータリー活動を展開して、次年度斎藤・北村英明年度に継続して参りたいと考えます」

さて会長所信の結びは、もう少し肩の力を脱いだソフトな台詞で語りましょう。ロータリーの活動を旅に例え、会員を旅人に例えるなら、今日、ここに新たに旅支度を整えた 55 人の旅人が勢揃いしました。多士済々、年の功も趣味趣向も異なる面々が集う旅の一座が構成されました。

芭蕉は詠みました。「月日は百代の過客にして行かふ年も又旅人也」とか。

旅の青い空に抜がる一朶の雲をめざし、行く先々の風流を味わいながら、ときに路傍の小さな草花さえ愛でることも忘れず、そして何より名物の食べ歩き、美味しい酒・肴に舌鼓を打つのも、また一興でしょう。名所旧跡を訪ね歩くのも、緑の芝生に白球を打ち放つのも、又然り。色々な旅の楽しみ方、楽しい出会いも待ち受けていることでしょう。大いに楽しみましょう。

道中の安全を期して、今年の旅は、先達は海老原良夫と松崎隆詞が、そして殿は斎藤広巳と北村英明が、相努めます。

さあ、みなさん、水海道ロータリークラブ 2015～16 年度 1 年限りの旅に出かけましょう。

## 幹事挨拶 松崎隆詞幹事



本日より幹事という大役を務めさせていただくにあたり一言ご挨拶申し上げます。前年度会計を仰せつかり、当初非常に戸惑いましたが会員の皆様のご協力により何とか無事終わることができました。誠にありがとうございました。本年度は、海老原会長の補佐として会員の方々と今まで以上に連絡をとり、幹事とし

ての仕事を全うし、そして楽しく進めて活きたいと思います。皆様のご指導ご協力の程よろしく申し上げます。

**出席報告** 荒井孝典委員長

会員総数	出席者数	欠席者数	出席免除	メーク	出席率
55名	50名	5名	0名	0名	91.00%

**ニコニコボックス** 染谷秀雄委員長 入金計 ¥171,000 累計 ¥171,000

誕生祝御礼《会員》鈴木(邦)・本橋・石塚(克)・山牟田・島田・五木田(利) 各会員

《ご婦人》青木(清)・北村(陽) 各会員

本年1年間お世話になります。何卒よろしく願い申し上げます。 海老原会員

今年度一年ご指導・ご協力宜しくお願いします。 松崎会員

中村補佐早速の訪問有難うございます。 大塚会員

一年間大変お世話になりました。今年度は荒井委員長のもと、弁当係の下僕として労働させていただきます。

武藤会員

前年度、大変お世話になりました。 山野井会員

海老原会長、松崎幹事年度のスタートをお喜び申し上げます。水海道ロータリークラブをどの様な方向に導いて頂けるのかとご期待申し上げます！！皆さん今年度も一緒に遊んで下さい。宜しくお願いします。

青木(正)会員

海老原・松崎年度のご活躍祈念致しております。この一年宜しくお願い致します。 松坂会員

新年度海老原会長、松崎幹事の船出をお祝いたします。第1回例会の乾杯の発声の命を頂きました。ありがとうございます。 白井会員

海老原・松崎年度スタートです。あまり気張らずガンバッテ下さい。 熊谷会員

本日より会報委員長を務めさせていただきます。皆様よろしくご指導の程お願い致します。 二本松会員

今年度から出席委員長を担当させていただきます。宜しくお願いします。 荒井会員

欠席が続きました。武藤年度お疲れ様でした。海老原年度宜しくお願いします。 斎藤会員

一年間宜しくお願いします。明朗会計に努めます。 北村(英)会員

本年度も宜しくお願いします。 瀬戸・細野 各会員

新会長様、新幹事様1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。 染谷(昭)会員

今年度も宜しくお願いします。 倉持・島田・鈴木(勝)・田上 各会員

海老原会長・松崎幹事一年間がんばってください。親睦委員会もどうぞ宜しくお願いします。 石塚(克)会員

海老原会長・松崎幹事、一年間宜しくお願いします。 青木(清)・亀崎・五木田(裕)・五木田(益)・長塚大澤・草間・石塚(利) 各会員 和久事務局

海老原会長・松崎幹事さん頑張ってください。 秋田会員

SAAの委員長となりました。本年も宜しくお願いします。 染谷(秀)会員

海老原年度宜しくお願い致します。 小島会員

本年度も宜しくお願いします。海老原会長・松崎幹事、年度が始まります。頑張ってください。 大串会員

新年度宜しくお願い致します。 鈴木(茂)・石井 各会員

一年間宜しくお願いします。 古矢・登坂 各会員

**会報委員会** 二本松恭行委員長 亀崎徳彦副委員長 本橋美章委員



親愛なるロータリアンの皆さん、私たちはロータリーで、善き行いを目指しています。私たちは人類に偉大なプレゼントを残した人々を尊敬しています。弾圧された人に人間の尊厳を与えたエブラハム・リンカーン。忘れ去られた人々に慈悲の心をささげたマザー・テレサ。虐げられた人々に平和的な変化をもたらしたマハトマ・ガンジー。彼らは、自らが世界へのプレゼントとなって、自らをささげました。



私たちは、これらを手本として刺激を受けることができます。人生において、自分が大切にする責任をおろそかにせずに、どうしたら自らも世界にささげられるだろうか、と。今年度のテーマを考えている時、ヒンズー教を通じて私が学んできた教訓を思い出しました。とりわけ、スダマの物語です。

貧しいスダマは、神の化身として王家に生まれたクリシュナの親友でした。2人の少年は、成長するにつれて少しずつ疎遠になり、クリシュナが軍を率いる名高き王となった一方で、スダマは村でつましい暮らしをしていました。

時はたち、スダマの生活はますます苦しくなり、ついには、子どもに与える食事まで事欠くようになってしまいました。妻は、幼いころに親しくしていたクリシュナに助けを求めるよう提案しました。最初は躊躇していたスダマも結局同意しましたが、手ぶらでは申し訳ないと、家族の残りわずかな食糧のお米を布に包んで持ってきました。

宮殿に入ると、スダマはその威容とクリシュナの歓迎ぶりにすっかり圧倒されてしまいました。丁寧に包んできた米さえ粗末に思えて差し出すことができないまま、持った手を後ろに隠していると、クリシュナは「何を持っているのか」と尋ねました。

布を開いて中の米を見たクリシュナは、軽蔑するどころか大喜びで食べ、二人は思い出話に花を咲かせました。数時間後、変わらぬ友情に感激したスダマは、助けをお願いすることをすっかり忘れてクリシュナの元を去りました。帰り道、スダマは、当初の目的を忘れていたことに気づきました。最後の食糧であったお米もクリシュナと一緒に食べ、なくなっていました。

おなかをすかせた子どもたちが待つ家に帰るのは至極苦痛でした。しかし、家の前に立って彼が目にしたのは、前日出てきた時の小屋ではなく、立派な家でした。そして、きれいな服を着て、十分な食事を済ませた家族が、スダマを待っていました。

クリシュナには、スダマがありったけの米をプレゼントしてくれたことがわかっていたのです。そのお返しに、クリシュナは、スダマが必要とするすべてを与えました。この逸話の教訓は、受け手にとって大切なのは、その物質的な価値ではなく、贈り主の心がどれだけ込められているか、ということです。スダマの物語のように、私たちがロータリーを通じてささげることが、いずれは自身への贈り物にもなるのです。私たちには選択肢があります。授けられたものを自分のものだけにとどめるか、またはそれを生かして自らが「世界へのプレゼント」となるか、です。

この機会は二度と訪れません。今年度も一度きりです。この機会を逃さずに生かし、「世界へのプレゼントになろう」をテーマに活動していきましょう。

K. R. RAVINDRAN

PRESIDENT, ROTARY INTERNATIONAL